

2月3日
SUN.

第29回
ヨコハマ映画祭



関内ホール(大ホール)
入場料(前売)2,500円
(当日)2,800円(税込)
●自由定員制

今、日本映画が元気です。ハマの冬の風物詩、ヨコハマ映画祭の季節です。2007年の日本映画は豊年満作で、その成果と共にヨコハマ映画祭は熱く盛り上がります。まつりのクライマックスは、2007年に最高に輝いた映画人がズラリと揃う個人賞表彰式。

映画上映は、作品賞など3冠の「それでもボクはやってない」(周防正行監督)に加え、主演女優賞など5冠の「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」(吉田大八監督)、ベストテン3位で脚本賞受賞の「しゃべれども しゃべれども」(平山秀幸監督)の3秀作。

2月3日は、映画ファンのための「映画の日」。
さあ、映画ファン全員、横浜・関内ホールへ大集合!

●プログラム

10:30AM 開場

11:00AM 「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」(112分)

(ベストテン4位 新人監督賞、撮影賞、主演女優賞、助演男優賞、助演女優賞)

監督・脚本=吉田大八 原作=本谷有希子 撮影=阿藤正一

出演=佐藤江梨子、佐津川愛美、永作博美、永瀬正敏、山本浩司
断然面白い。これはずば抜けて鋭い人間観察に裏打ちされた作品である。

「あたしは絶対人とは違う。特別な人間なんだ!」女優を目指して山間の村を飛び出した自意識過剰な勘違い女、和合スミカ(佐藤江梨子)。両親の不慮の交通事故死で田舎に舞い戻ったスミカを軸に、妹、兄一実(永瀬正敏)、兄嫁(永作博美)の凄絶なバトルが繰りひろげられる。冒頭から思わぬ展開の連続に唖然としながら、和合スミカ(佐藤江梨子)とその家族のもつれた心の糸を読み解くことに釘付けとされてしまう。静かだが確実に映画の奥で感情が爆発している。

こんな映画が突然飛び出してくるから日本映画界はまだまだ可能性を豊かに秘めている。監督はCM界の鬼才・吉田大八。撮影は「下妻物語」などの阿藤正一。最強のタッグで斬新な演出、絵作りを示した。そのありあまる才能はまだホンの一端を示したにすぎないだろう。必見の傑作に腰を抜かさぬようご注意あれ!

1:15PM 最新作PRコーナー

予告篇上映とスタッフ、キャストの舞台挨拶

2:00PM **個人賞表彰式** 各賞受賞者のほかゲスト多数予定

4:00PM 「しゃべれども しゃべれども」(109分)

(ベストテン3位 脚本賞)

監督=平山秀幸 原作=佐藤多佳子 脚本=奥寺佐渡子

撮影=藤澤順一

出演=国分太一、香里奈、森永悠希、松重豊、八千草薫、伊東四朗

近年忘れてかけていた日本映画お得意の笑って泣ける人情モノが爽やかに復活した。

今昔亭三つ葉(国分太一)は、師匠(伊東四朗)の古典落語が大好きな「二つ目」。思うように腕が上がらず悩む三つ葉のもとに「話し方を教えて」とワケありの三人が集まってくる。この三人それぞれの個性が際立っており、三つ葉をさらに悩ます。噺の世界同様、隅田川沿いの下町情緒たっぷりな背景に人情味あふれる話し方教室が展開し、本当の気持ちを言葉に乗せられないぶきっちょな生き様に「芸」と「恋」の行く末が絡み合ってくる。

破格の面白さ感動にあふれる原作に敬意をはらい、映画ならではの構成に換骨奪胎した脚本、奥寺佐渡子の腕の冴え! テンポに富んだ若々しい口跡で「火焰太鼓」にチャレンジした国分! 名人芸とはかくあらん、玄人はだしの高座姿を演じて何食わぬ顔の伊東四朗がスゴい! 何よりもさりげない市井の話と心得ながら「粋と芸」の真骨頂を描ききった当代きっての職人監督、平山秀幸に大拍手を贈りたい。

6:05PM 「それでもボクはやってない」(143分)

監督・脚本=周防正行 撮影=栢野直樹 照明=長田達也

音楽=周防義和

出演=加瀬亮、瀬戸朝香、山本耕司、もたいまさこ、役所広司

待ちかねたぞ、周防正行! 11年も待たせて出来が悪かったら勘弁しないぞ!と力んで観に行ったら、そんなこちらの愚かな思惑をあざ笑うかのような大傑作だった。おそらく、ここ数年の日本映画の最良の一作だろう。恐るべし、周防正行!と呟くのみ。増加する痴漢犯罪は許しがたい。だがいつ冤罪に巻き込まれるかも分からないという恐怖は、男性なら誰しも持つだろう。その深刻な社会問題を上質なエンターテイメントに仕立てあげるといふ離れ業。正に天才の仕事だ。2位以下を2倍の票数で引き離してブッチ切ったのも当然だろう。加瀬亮以下の俳優陣も入魂の演技で存在感を示す。息つく暇もないスリリングな展開に時間を忘れ、翻弄されているうちに、ジワジワと恐怖感が増してくる。しかし注意深く観ていると、周防監督の人間を見据える目のあたたかさが浮かびあがる。これ以上ないほど練りあげられた脚本が見事だ。真に観なければならぬ映画とは、この作品のことだと断言しよう。今度は11年も待たないぞ、周防さん!というのがすべての映画ファンの意思と希望と願望だ。

(8:30PM頃終演予定)

《2007年度日本映画各賞》

- 作品賞 「それでもボクはやってない」
周防正行監督作品
製作:フジテレビジョン・アルタミラピクチャーズ・東宝
配給:東宝 監督・脚本:周防正行 撮影:栢野直樹 照明:長田達也
美術:部谷京子 音楽:周防義和 出演:加瀬亮、瀬戸朝香、山本耕司、もたいまさこ、役所広司
- 監督賞 周防正行(「それでもボクはやってない」)
新人監督賞 吉田大八(「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」)
脚本賞 奥寺佐渡子(「しゃべれども しゃべれども」「怪談」)
撮影賞 阿藤正一(「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」)
主演男優賞 加瀬亮(「それでもボクはやってない」)
主演女優賞 佐藤江梨子(「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」)
助演男優賞 永瀬正敏(「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」)
助演女優賞 永作博美(「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」)
最優秀新人賞 新垣結衣(「恋するマドリ」「ワルボロ」「恋空」)
夏帆(「天然コケッコー」)
北乃きい(「幸福な食卓」)
- 特別大賞 藤村志保 日本映画の黄金時代を支えた大スターでありながら、今なお活躍する大女優に、映画ファンより敬愛の念を込めて—

《2007年度日本映画ベストテン》

- 第1位 「それでもボクはやってない」(周防正行監督)
第2位 「天然コケッコー」(山下敦弘監督)
第3位 「しゃべれども しゃべれども」(平山秀幸監督)
第4位 「腑抜けども、悲しみの愛を見せろ」(吉田大八監督)
第5位 「河童のクウと夏休み」(原恵一監督)
第6位 「魂萌え!」(阪本順治監督)
第7位 「サイドカーに犬」(根岸吉太郎監督)
第8位 「人が人を愛することのどうしようもなさ」(石井隆監督)
第9位 「自虐の詩」(堤幸彦監督)
第10位 「夕凧の街 桜の国」(佐々部清監督)
- 次点 「スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ」(三池崇史監督)
次点 「クワイエットルームにようこそ」(松尾スズキ監督)

